

あなたたちを守りたい

少しでも、事件や事故から子どもたちを守るために自分たちができること――

今年5月に新潟市で発生した小学2年生女児殺害事件(※1)をはじめ、昨年10月には枚方市で集団登校の列に車が突っ込む事故(※2)など、昨今、絶えることのない子どもたちが犠牲となる事件や事故。

みんなが安心して、日々過ごせるために私たちができることは・・・

平成29年度警察白書によると、全国における13歳未満の子どもの犯罪被害件数は、平成14年以降は減少傾向にあるものの、同28年中は約1万7300件もの被害件数が報告されています。もちろん、これはあくまでも警察の捜査によって犯罪として認知された件数で、実際の発生件数はもっと多いといわれています。

その中でも特に見過ごせないのは殺人事件は74件、強制わいせつ893件、いわゆる誘拐が106件など、直接子どもの生命や今後の人生にも爪痕を残す凶悪事件が多発しているということ。特に近年、女児を狙ったこれらの事件は後を絶ちません。

地域の子どもたちの安全安心を守るために、自分たちは何をするべきだろう

今回は特集として、地域で組織的に取り組まれている「子ども見守り隊」の活動を紹介します。

市内には、今回紹介する小学校区で組織化されている見守り隊のほか、個人で児童の通学中の見守りをされている方、また青色パトロールで定期的に地域内を見回っていたいっている方々など、様々な形で地域や子どもたちの見守りを行ってくださる方々がおられます。

お子さんをお持ちの家庭の方や、お近くに子どもたちがいる皆さんには、ぜひこの機会に、集団の登下校、また地域での見守り、子どもたちの安全安心を守るためにどんな役割があるのか、また事件・事故から子どもたちを守るため、自分たちに何ができることがないか、一度考えていただければと思います。

※1：平成30年5月7日に新潟市で小学2年生の女児が殺害され、同日、自宅周辺のJR線の線路上に遺棄された事件。容疑者は近くに住む23歳の男性、現在捜査中。

家庭や地域の皆さん、一人ひとりの愛情が子どもたちと地域を守る

宇陀市役所 総務課主幹・教育委員会生涯学習課
(青少年健全育成担当) 島田

防犯・交通安全・青少年健全育成を進めるため、奈良県警察からの出向職員として勤務

命を守るためのお約束！

い いかない
か のらない
の おおきな声を出す
お すぐににげる
す しらせる
し 一人であそばない
一 出かける前は
人 お家の人にいう
前

日頃から、子どもたちのため個人や組織を問わず、様々な形で地域での見守り活動をいただいている方々に深くお礼申し上げます。

宇陀警察庁舎管内では、昨年少女への声かけや痴漢、盗撮など防犯上の相談が9件寄せられました。幸い子どもたちが犠牲となる事件は発生しませんでした。また中学生以下の子が被害者となる交通人身事故は3件でしたがいずれも軽傷でした。

これは日頃から地域の方々による子どもたちへの見守りの効果であるといえます。

皆さんがご心配なされるとおり、今日全国各地で子どもたちが犠牲となる事件や事故が後を絶ちません。特に昨今、誘拐や殺人など凶悪事件が多発し、児童とりわけ女児がその

標的となる傾向にあります。そして、その手法も多様化し、警察や行政機関だけの力で事件を100%未然に防ぐのは現実的に困難です。

しかし、見守り隊や青色パトロールなど、日頃からの活動や防犯意識が地域に根付いていれば、犯罪者からは敬遠されるでしょうし、実際に地域の方々の目が様々なところに行き届いていれば、地域内での非行や事件、事故は防げます。

もちろん警察としても子どもたちへの教育やパトロール、啓発活動など、これからも積極的に防犯対策を行っていきます。

しかし、そうとは言っても被害の対象となるのは主に子ども。やはり日頃からのあいさつや声かけなど地域の方と子どもたちとのコミュニケーションや、周囲でのサポートは必要不可欠になります。

みんなで見守り、地域全員が「見守り隊」



事件や事故は決して他人事ではなく、誰もが予想もしていないことで、ある日突然に被害者になってしまう。

そのときに後悔しないためにも、家庭や地域、学校では常日頃から子どもに言い聞かせ、できる限りの対策を講じてあげること、事件や事故から守ることに繋がります。

みんな日頃からあいさつをすれば、顔見知りになります。地域でも子どもの様子に異変がないか注意し、みんなで子どもたちを育てていきましょう。

自分の身は自分で守る

子ども自身も「自分の身は自分で守る」意識を持つことが大事

【防犯関係】 万が一に備えて

- ・知らない人に声をかけられても無視をして、必ず親や先生に伝える
 - ・登下校時など、なるべく一人にならないようにする
 - ・防犯ブザーを持たせる
 - ・GPS機能のついた機器などを持たせる
 - ・防犯カメラの積極活用
- (自治会での設置は補助金制度があります)

【交通安全】 薄暮時や夜間の視認性を上げるため

- ・ピカピカグッズを身に付ける
- ・白や黄色など、なるべく明るい色の衣服を選ぶ



※ 2:平成29年10月18日、枚方市の住宅街の通学路で乗用車が集団登校中の児童の列に突っ込み、児童6名が負傷。過失運転致傷で逮捕されたドライバーは「太陽の光がまぶしかった」と説明。

市では各地域で、様々な形で見守り活動が行われています 今回は、活動に取り組まれている方々の声を紹介します

きっかけは、 奈良小1年女児殺害事件（※3）

天満台東地区見守りボランティア
（榛原天満台東） 会員14人



市内で最も早くに設立された見守り隊で、設立当初からのメンバーである代表の川本さんは、

「活動を始めたきっかけは、平成16年に奈良で発生したこの事件。偶然私の孫がこの被害者家族の近くに住んでいたことから『これは決して他人事ではない』と思いました」

「地域の仲間たちに声をかけながら、警察や学校と協議を行い、活動を始めることができたのが平成18年2月。準備で一年近く費やしながらも、最初の決起集会を開いた時は天満台全体で約90人が集まったそうです。」

「活動を始めて約13年。今は西・東そしてひのき坂の3地区でそれぞれ活

動を展開しています。今ではすっかり活動も定着し、活動当初の子も立派に成人されました。感慨深いです」

「しかし当初は苦労もあったそう。当初は、周りでそんな活動が無かったこともあり、懐疑的な目で見られたこともありましたよ。」

でも、私たちにとって子どもたちは、自分の家族でなくても地域の宝だと思っています。『自分の孫もそれぞれ住んでいる街で大事にしてもらえたら』、『そういう気運が全国で高まって子どもたちが安心して暮らせるようになれば』という想いでこれまで続けてきました」

「一緒に聞いていた会員の方も

「前から気になっていたのが夕暮れ時。公園で遅くまでいる子どもを見かけるし、公園も広いので知らない人に連れて行かれてもわからない」

「他の地域でも個人で活動されている方がいます。私たちだけでは100%はパトロールしきれない。日々のお散歩や街角でのおしゃべりなど、どんな形でもいいので、地域の皆さんには地域の安全安心づくりに関心を持ってもらえたら…」

子どもたちのために傷テープを持参しています

天満台西地区見守りボランティア

（榛原天満台西） 会員9人



「代表の塚本さんは、

「この地域は範囲も広く、交差点も多い、もう少し人員がいればと思うこともあります。小さな子どもが多い中、車がよく往来する住宅地なので、交通事故にはとても気を使います。」

子どもたちとは毎日、下校時に顔を合わせているので本当に自分の身内のようなものです。時折、走っていて転ぶ子もいます。その度に『おっちゃん、傷テープ貼って』って寄ってくるんですよ。こういった時に、子どもたちとの絆を感じます」

「他の見守り隊と一緒に、小学校で行われるサポート会議や学校行事にも呼んでいただいたり、駐在所の方も一緒にパトロールしてくれます。」

以前、周辺で不審者情報が相次ぎました。その時は、学校からも保護者の方もパトロールに来てくれました。やっぱり安全安心のまちづくりにはいろんな連携が必要ですね」



※3：平成16年11月17日に奈良市で帰宅途中の小学1年生の女児が誘拐され、その後殺害・遺棄された誘拐殺人事件。犯人は新聞販売店店員だった当時36歳の強制わいせつの前科がある男性。

集団での登下校で事故防止

ひのき坂防犯パトロール

(榛原ひのき坂) 会員11人

——代表の福山さんは、

「最初は自治会活動の一環として見守りパトロールが始まったそうです。今は有志で活動しています」

——小学校からひのき坂まで約2キロ、徒歩で20分

「子どもたちは元気に歩いて登下校しています。歩道は確保されているのですが、通学距離も長く、交通量も多いので道中誰かに連れ去られないか心配な箇所もありますし、自動車スピードを出す国道との交差点もあります。そういった場所には私たちが立ちますが、やはりドライバーの交通安全意識が重要です」

——皆さんは日頃から声をかけておられますが、子どもたちにも安全意識をもってもらいたいと話されます。



「学校でも指導いただいていますが、長い距離の登下校、子どもたちはお話をしながら歩いています。」

私たちがお願いしたいのは、できるだけお友達と一緒に歩いてほしいということ。みんな歩く速度は違いますが、事故や事件から自分の身を守るためにも集団で歩くようにしてほしいです。大勢でいると犯罪の抑止力になりますし、ドライバーも注意します。

私たちも、通学路の中で危険な箇所や注意が必要なところがあれば、学校や関係機関に相談して少しでも改善できれば、と思っています」

子どもたちから元気をチャージ

あかね台地域子ども見守りたい

(榛原あかね台) 会員14人



——榛原小学校区は駅周辺であることから、常に交通量の多い駅へのアクセス道を横断する子どもたちがいます。会長の山下さんは

「私が自治会長だった頃、天満台で見守り活動が始められたことを受けて、ある会議で『榛原小は大丈夫?』という声があがったのがきっかけ。」

そこで当初、警察OBの方をはじめ老人会で声をかけ始めました。最初は見守り活動でも、どんなことをすればいいのか戸惑いましたが、とにかく自分たちの子どもたちのつもりで愛情を持って接してきました。

時には友達に意地悪する子や、やんちゃな子には本気で叱っていましたね。そのこともあって、今でも『おっちゃん』って言って声をかけてくれる卒業生の子もいます。これも私たちの活動の成果のひとつかな」

——活動のポリシーは、

「やはり日常のコミュニケーション。榛原小は校長先生も日頃から『日本一あいさつのできる学校を目指そう』と言われています。そのこともあって毎日の『あいさつ』を通じ、今日まで子どもたちとコミュニケーションを図ってきました。時には、子どもたちから学校での様子や友達の話などいろいろなお話を聞いたり、相談を受けることもあります」

——近年、交通安全・防犯以外の安全安心が気になるそうです。





日々の積み重ねが

事故の防止に

榛原口田辺自治会（榛原萩原）

また、自治会で地域の通学路を見守っているという萩野さん「国道165号と榛原駅を結ぶこの道は、3年ほど前に開通しまし

「時折、子どもの家庭生活が気になることがあります。やはり昔と比べて、各家庭の事情が複雑化していますし、近年虐待や子どもの貧困化という社会問題も生じています。私たちも、日々の様子から子どもたちの異変に気がつけたらと思います」

「ともあれ、私たち高齢者は子どもと触れ合うことで元気をもらっていますし、日々の活動で生活リズムを作ることと健康の源にもなっています。だから相互協力。みんなに感謝ですね」

た。朝の通勤時間帯には多くの自動車が行き来します。毎朝多くの方がこの道路を横断するのですが、ここは押ボタン信号で、普段は黄色信号なんです。

だからドライバーには『ここを子どもが横断する』という認識をしてほしいのです。ですから自治会として、せめて登校時間帯は啓発も兼ねて、子どもたちの通行を見守っていただければ、と3人交代で活動しています。

やっぱり最初は『この人、誰？』みたいな感じだったので、まち協からゼッケンを借りたんです。通勤通学する人にとってもここでのあいさつが日課になってきたのでは？駐在さんも一緒にいてくれるので助かっています」

朝のあいさつ

元気で声高らかに

子どもの安全見守り

大野ボランティアグループ（室生大野）

会員11人

東西の小学校が統合して2年となる室生小。スクールバスの子も徒歩の子も、また中学生も毎朝多くの子どもたちがここを通行します。会長の山口さんは、

「この活動が始まったのは平成23年。きっかけは当時の地域老連での会合の中で、『地域のために貢献できることをしよう』と話



し合った結果、『通学路の見守りで子どもを守る』となり、広く声かけした結果、当初20人賛同者が集まり発足。しかし、会員の高齢化により、今は現会員で3手に分かれ、登下校を見守っています。日々の子どもたちの成長が楽しみです」

副会長の大西さんは、

「私は駅の直ぐ近くに住んでいるのですが、人口が減ってしまっただけで日中は本当に静か。唯一登下校時間だけは子どもたちの声でにぎやかになります。やはり子どもたちの声は地域の活力のために必要。なんとかして子どもたちの日々の通学の安全は守りたい」

皆さんの最近の話題は千葉小3女児殺害事件。（※4）

「事件のおかげで、善意でしている見守り活動に支障が出ている」「現実として、我々が活動にどこ

まで責任を持つのか？という見方もあります。でも、私たちは善意のボランティア。当然、意識としては持っていますが、『義務』『責任』と考えたら後に続く人も出てきません」

課題は、会員の高齢化と人員不足

例えば、愛犬との散歩やウォーキングパトロール 自分ができる範囲で見守り意識をもってもらえたら

今回のインタビューで皆さん笑顔で語られるのが

「小学生の子だけじゃなく、最近は大人数の人もあつていいですね。『小学校から見ていた子が成人して、先日選挙の投票所で見かけて声をかけてくれたんです。うれしかった』

「中学校に進学しても、しっかりとあいさつしてくれそうですよ。今はちゃんと目を見て声をかけてくれるんです」

しかし、どの団体も平均年齢が70代後半、高齢化に伴う人員や後継者不足が最大の課題

「会員集めは苦労。あと一人いれば、あの箇所の安全が確保できるのに……」

「実際、地域ぐるみで動かないと、個人ではなかなか人が集まりにくいし、参加しようとしてもきつかけがつかみにくい」

「リーダー、後継者を育成してい

「学校が統廃合して地域が寂しくなっている今だからこそ、我々見守り隊や学校、家庭だけでなく、地域みんなが連携して子どもたちを大事に思う気持ちを育んでいけたら」

かないと数年先が心配」とは、皆さん共通の声。

「周りの方に『ここは通学路、時間帯によれば車両通行禁止区域』ということを知って、周知してもらって、通行に気をつけたり、また不審な動きに注意するようになれば」「通学路で危険な箇所や狭い箇所、水路があつて端に寄れない箇所があります。そこは、対策をお願いしたいし、また通行するドライバーにも減速するなど通行者へ配慮してほしい」と地域や通行する方への理解と関心惹起を求める意見もあります。

今後も、互いが連携し、それぞれの立場がそれぞれできる範囲で、子どもたちの安全安心を確保できる環境づくりを進めていければと願っています。

※4：平成29年3月24日に千葉県松戸市で小学3年生の女児が行方不明になり、その後遺体で見つかった事件。容疑者は同校の元保護者会長で事件当日も見守り活動を行っていた。現在公判中。

地域のみなさん、いつもありがとうございます



室生小児童会 5・6年生の皆さん

見

守り隊の人は、毎日朝早くから通学路に立って、いつも事故や事件から私たちを守ってくれています。

私たちが朝眠くて元気がない時も「おはよう」とあいさつしてくれて、元気づけてくれます。通学途中も、「今日の給食美味し

いかなあ」とか、いろんな話をしてくれるので楽しいです。犬と一緒に見守りに来てくれる人がいますが、みんなその犬が大好きで会つのが楽しみです。近所の人や、スクールバスの運転手の人、毎日すれ違つてお兄さんなど、いつもいろんな人があいさつしたり、話をしてくれます。いつもありがとうございます。これからもよろしくお願

毎

朝、友達と集団で登校しています。見守り隊の方だけでなく、近所の人がいっつも注意してくれているので安心です。時には慰めてくれたり、いつもみんなの名前を呼んでから声をかけてくれます。

以前、友達がかばんを落した時は近所の人や見守り隊の人も一緒に探してくれたし、友達が信号無視したとき、めっちゃ怒ってくれましたね。これまで近所の友達も合わせて通学路で事故にあったことがない。これは本当に皆さんのおかげだと思います。すし、これからもお願いします。兄妹そろって本当にお世話になっていきます。いつまでも元氣、笑顔で私たちを支えてくださいな。



榛原小 OB の兄、現 5 年生の妹の松本兄妹

皆



榛原東小 PTA の松原さんファミリー

さんのおかげで子どもたちの登下校の安全が保障され、元気に家路につき、安心と感謝の日々を過ごしています。夏の暑い日、冬の寒い日、雨や風、雪の日など、いろんな季節にいつもあたたかい目で見守っていただいています。

全国各地での事件や事故の報道で心痛めている今日ですが、私たちの地域では毎日、「おかえり」「ただいま」という元氣な声が聞こえています。

時には、「大きな荷物を持ってもらったよ」「手を繋いで歩いてもらったよ」と子どもたちは、大変喜んで楽しく帰ってきます。私たち保護者も日頃の感謝の気持ちとお礼をこの場をおかりして申し上げます。本当にありがとうございます。

『地域と共にある学校づくり』を

日

頃から子どもたちの登下校の安全のために、組織的に取り組んでいただいている「見守り隊」の方々、個人で見守りをされている方、その他子どもを見守っていただいている多くの団体、地域の方々に心より感謝申し上げます。

第65回「社会を明るくする運動」作文コンテストの最優秀作品に「あいさつ」は魔法のパワー」という作文が選ばれました。作者の児童が1年生の時、下校中につまりぎ転んでしまった際、近くにいた見守りボランティアの方に優しく助けてもらいました。それ以来、恩返しとして今も見守りボランティアの方にあいさつを続けてきた経験をもとに、6年生になったから綴ったものでした。児童はその経験から、あいさつには自分も相手も気持ちよく一日が始める魔法のパワーがあることを学びと共に、あいさつを交わし、助

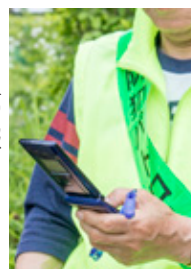


宇陀市教育長 福田 裕光

【宇陀市安全・安心メール】では、不審者情報や防災情報を、各学校の保護者向け登録制の

【宇陀市教育メール】では、防犯情報ははじめ学校・学年ごとの学校行事や緊急連絡などを発信しています。安全安心には、情報収集が重要です。ご活用ください。

※教育メールについて、各学校にお問い合わせください。



学校が変われば、地域が変わる
地域が変われば、子どもが変わる
子どもが変われば、未来が変わる

地域全体が豊かにつながり共に汗をかく中で、未来ある宇陀市の子どもたちの健全育成がさらに進められますよう、これからもよろしくご支援ご協力をお願い申し上げます。

け合えるつながりを深めることの大切さを感じ取っています。地域のボランティアの方との出会いが、一人の子どもの「生き方、未来」に影響を与えたと言えるのではないのでしょうか。

私は学校と家庭と地域が手を取り合つて宇陀市の子どもの未来を創造していけたらと願っています。